丸紅米国会社ワシントン事務所長
今村　卓
imamura-t@marubeni.com

米大統領選　共和党全国大会

トランプ氏を正式指名するも党結束には至らず

- 共和党全国大会直前の 7 月 15 日、同党の大統領候補の指名が確実になっていた不動産王ドナルド・トランプ氏は、社会保守で知られるマイク・ペンス・インディアナ州知事の副大統領候補への起用を発表。党内で主流派と関係が良好で社会保守として評価が確立しているペンス氏の起用は党内の結束を意識したトランプ氏の決断。ただトランプ氏とペンス氏の主張の違いは多く、今後の調整が課題。
- 共和党全国大会が 7 月 18 日からオハイオ州クリーブランドで始まり、昨日 19 日にはトランプ氏とペンス氏が正式に共和党の正副大統領候補に指名された。もっとも 18 日にはトランプ氏の指名阻止を狙う反トランプ派が大会規則変更を求めて抵抗、反トランプ派と親トランプ派の罵声が飛び交い、党内の亀裂も露呈した。
- 党大会は共和党重鎮や党主流派の参加、演説が非常に少なく、盛り上がりを欠く展開になっている。トランプ氏の家族が総出で同氏の好感度向上に取り組んでいるが、メラニア夫人の演説の盗用疑惑の浮上なども影響、効果は限られそう。大会前半を終えた時点では、トランプ氏が狙う挙党態勢の確立、大会後のクリントン氏追い抜きは難しそう。

(1) 党結束を優先してペンス・インディアナ州知事を副大統領候補に

共和党全国大会直前の 7 月 15 日、同党の大統領候補の指名が確実になっている不動産王ドナルド・トランプ氏は副大統領候補にマイク・ペンス・インディアナ州知事（57 歳）の起用を発表した。CNN 等の報道によると、トランプ氏は最後までニュート・ギングリッチ元下院議長の起用を模索したといわれ、ペンス氏の起用もいったん決定しながら翻意しかけて、最後はトランプ氏の長女イバンカ氏など家族に説得された模様である。迷走気味ではあったが、これもトランプ氏は選挙戦略を本選に向けて転換し、「自身の弱点を補う候補」を起用した結果であろう。

ペンス氏は 2000 年の連邦下院選（インディアナ州第 2 区）で初当選し、2001 年から 2012 年まで 6 期下院議員を務めた。下院共和党では 2006 年に院内総務に立候補したがベイナー議員に大敗し、2009 年にナンバー3 である共和党会議議長に選ばれた。2012 年、インディアナ州知事選で当選し、2013 年 1 月に第 50 代目インディアナ州知事に就任した。

社会・宗教保守で知られるペンス知事は 2015 年 3 月、州法 101（信仰の自由修復法）に署名。同法は、宗教を理由に取引を拒否する個人・法人を保護する州法であり、例えば LGBT の顧客に対するサービスの提供、従業員の採用を人種や性別を理由に拒否する企業を保護する法律として、全米の論争を巻き起こした。多くの企業は同州での事務所設立を見送

るなど、同法に対する激しい抗議もみられた。結局、一週間後に同州議会は同性愛者に対する差別を禁じる条項を盛込んだ修正版を可決。宗教保守による過激な迫害行為として民主党やリベラル団体の批判を招いただけでなく、修正版の成立で LGBT 団体に譲歩したとして宗教団体からも非難されるという苦しい立場に追い込まれた。

(2) トランプ氏はペンス氏との主張の一致が課題

共和党主流派の一人であるペンス知事の起用は、トランプ氏の挙党態勢の確立を優先した選択といえる。ペンス知事は下院議員時代に共和党主流派の一員としての評価を確立していて、現在の議会の党指導部のライアン下院議長とマコネル上院院内総務はペンス知事の起用を高く評価している。また、社会保守としての長い実績を持たないトランプ氏にとって、女性の妊娠中絶権利の否定やキリスト教徒の権利の保護をはじめ、社会保守としての評価が確立しているペンス知事は、自らの弱点を補う頼もしい戦力にみえていることは確実である。

もっとも、トランプ氏とペンス氏は複数の政策課題において意見の相違もある。例えば、自由貿易を支持するペンス知事は過去に TPP を強く支持しているが、トランプ氏は保護主義に傾き一時 TPP からの離脱を唱えたほどであり、現在は協定の再交渉を訴えている。また、予備選でトランプ氏がイスラム教徒の米国への一時入国禁止を提案したときに、ペンス氏は「侮辱的な違憲行為」と発言している。現在のトランプ氏の主張は軟化しているとはいえ、この問題を巡る両者の立場の一貫性は党大会後にも残る課題となろう。

(3) 党大会は党内の亀裂露呈の末にトランプ氏を大統領候補に指名

7 月 18 日から始まった共和党全国大会は、21 日までオハイオ州クリーブランドのクイッケン・ローンズ・アリーナ（収容人数 2 万人）で行われる。関連行事への参加者を含めると、大会期間中は約 5 万人がクリーブランドに集まる見通しであるという。

今回の共和党全国大会は、2 日目を終えた現時点まで異例の展開を辿ってきている。一つは、党大会で採用される候補選定規則が議論の対象になったことである。従来の党大会では党大会での指名自体は儀式化し規則は注目もされなかった。しかし今回は予備戦を勝ち抜いたトランプ氏の党大会での指名を阻止しようとする「反トランプ派」が形成されて、抵抗を続けた。党内主流派の多くは予備選を勝ち抜いたというトランプ氏の実績を覆せないとして指名を容認したが、反トランプ派はトランプ氏の本選での勝算の低さや党の従来の方針と異なる主張を繰り返す同氏では党の存続を脅かされるとして、トランプ氏以外の候補の指名の可能性を残すべく候補選定規則の変更を求め続けた。最終的に同派が求めたのは、党大会の第一回投票でトランプ氏への投票を義務付けられている拘束代議員を解放し、誰にでも投票できるようにすることだった。同案は党大会直前の規則委員会で否決されたが、反トランプ派はあきらめず、党大会初日に同案を個々の代議員の点呼投票で採決するように求めた。党側はこれを受け入れず発声投票での採決を強行、党大会は同案を否決した。このときの会場は議事運営に対する反トランプ派の罵声とそれをかき消そうとする親トランプ派の怒号がぶつかる騒然とした状態になり、かえって亀裂が目立った。とはいえ、これで反トランプ派の抵抗は終わり、19 日の党大会はトランプ氏とペンス氏を正式に共和党の正副大統領候補に

指名した。

(4) 党重鎮と主流派の演説が少なく盛り上がり欠く党大会

一方、今回の党大会の出席者や演説者をみると、従来と比べて「A リスト」の政治家、実業家、有名人が少ないことが目立つ。従来は過去の大統領や大統領候補、予備選を戦ったライバル、党内の期待の星とされる政治家などが登壇して、党内結束が図られていた。しかし今回はブッシュ家が全員欠席、過去 2 回の共和党の大統領候補のミット・ロムニー元マサチューセッツ州知事とジョン･マケイン上院議員も欠席。過去の大統領候補の出席者はロバート・ドール元上院院内総務のみである。今回の共和党予備選に出馬したトランプ氏以外の主要候補 16 人のうち、党大会で演説するのも僅か 5 人になった。

議会の共和党指導部からは、19 日にマコネル上院院内総務とライアン下院議長が演説し、ともに党内の結束を訴えた。しかし、同指導部もトランプ氏を全面的に支援する姿勢ではなく、ライアン氏の演説もトランプ氏にあまり触れず、「反クリントン」が強調された。大会初日に演説した新人議員のトム･コットン上院議員もジョニー・アンスト上院議員も同様であり、こちらは 2020 年大統領選などを視野に入れて知名度向上を狙う演説にみえた。

(5) 家族総出でトランプ氏の好感度向上狙うが効果は限定的

逆に党大会の演説者で目立つのは、トランプ氏の家族である。大会初日にはメラニア夫人が登場、2 日目以降も娘と息子 4 人が登壇する。家族総出で「親切で思いやりのある家庭人としてのトランプ氏」をアピールし、非常に低い同氏の好感度の改善を目指すとみられる。実際、メラニア夫人は公の場では初めてといわれる演説でトランプ氏の親切さや両親への敬意を懸命に訴えた。もっともメラニア夫人の演説は、終了直後から 2008 年の民主党全国大会でのミシェル・オバマ現大統領夫人の演説と一部が酷似しているという盗用疑惑が浮上。翌 19 日の主要メディアはこの問題を集中的に報じる事態になり、トランプ陣営は対応に終われた。19 日の娘、息子の演説は好評を得た模様だが、メラニア夫人の盗用疑惑から関心を遠ざけるには至らなかった。家族によるトランプ氏の好感度向上の試みの成果は限定的にとどまりそうである。

(6) 党大会効果も限定的か、支持率でクリントン氏を逆転は難しそう

上記以外の党大会の演説者の大半は、純粋にトランプ氏を支持する政治家や著名人が大半を占めている。19 日には、今回の共和党予備選に出馬し、トランプの副大統領候補にも有力視されたクリス・クリスティ・ニュージャージー州知事や、同じく出馬して撤退後はトランプ氏を支持した反主流派のベン・カーソン氏も演説した。この 2 人はクリントン氏の批判とトランプ氏への支持要請でまとまった。このスタイルの演説が 3 日目以降も続けば、党大会を通じた印象は従来と同じく大統領候補のトランプ氏を称えて党内の結束を呼び掛ける内容が中心だったという結果には収まるだろう。

もっとも大会 2 日までの共和党重鎮の欠席、党大会初日での党内の亀裂の露呈、メラニア夫人の盗用疑惑への当惑の印象は簡単には払拭できない。残り 2 日間で挽回して挙党態

勢を確立し、トランプ氏支持に弾みがつくといった「躍進」はかなり難しいだろう。トランプ陣営は、過去の党大会のように終了後に支持率が数%上がる「党大会効果」に期待しているだろうが、党大会前半 2 日間を終えた時点でみれば、大きな効果は期待できないだろう。党大会後に支持率でクリントン氏に追いつくのがせいぜい、来週の民主党全国大会が順調に終わるようなら、その効果で浮上するクリントン氏に再びリードされるのではと思われる。

なお、党大会初日は 2016 年共和党政策綱領が採択されている。こちらは党とトランプ氏の主張の距離がどのように狭まるのかが注目されたが、総合的にみれば大統領候補のトランプ氏に配慮して、メキシコ国境の壁建設を盛り込むなど党が同氏の主張に党が譲歩した構図になっている。詳しい分析は次回以降で行いたいが、無党派層やヒスパニック系など大統領本選の勝利に必要なグループからかえって敬遠される政策綱領になったという印象を受けることだけは強調しておきたい。

以上／上原・今村

本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、丸紅米国会社ワシントン事務所（以下、当事務所）はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。

本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当事務所は何らの責任を負うものではありません。

本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。

本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます）は、当事務所の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。